令和3年度　全国学力・学習状況調査結果の概要と説明（第3学年対象）

1　平均正答率

国語	平均正答率	区分別平均正答率				観点別平均正答率					問題形式別平均正答率		
		話すこと聞くこと	書くこと	読むこと	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式
第三中	71	85.2	65.5	54.9	81.4	65.5	85.2	65.5	54.9	81.4	69.6	79.5	65.5
東京都（公立）	67	81.9	59.7	52.5	76.1	59.2	81.9	59.7	52.5	76.1	67.0	75.1	59.2
全国（公立）	64.6	79.8	57.1	48.5	75.1	56.0	79.8	57.1	48.5	75.1	63.9	74.4	56
東京都比較	+4.0	+3.3	+5.8	+2.4	+5.3	+6.3	+3.3	+5.8	+2.4	+5.3	+2.6	+4.4	+6.3
全国比較	+6.4	+5.4	+8.4	+6.4	+6.3	+9.5	+5.4	+8.4	+6.4	+6.3	+5.7	+5.1	+9.5

数学	平均正答率	区分別平均正答率				観点別平均正答率					問題形式別平均正答率		
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解		選択式	短答式	記述式
第三中	67	74.9	63.5	69.7	60.6		53.5	83.3	75.9		60.8	79.5	48.6
東京都（公立）	60	68.5	56.0	58.1	54.7		44.6	79.6	68.1		55.6	72.8	38.8
全国（公立）	57.2	64.9	51.4	56.4	53.8		41.1	77.7	65.6		52.4	70.5	35.0
東京都比較	+7.0	+6.4	+7.5	+11.6	+5.9		+8.9	+3.7	+7.8		+5.2	+6.7	+9.8
全国比較	+9.8	+10.0	+12.1	+13.3	+6.8		+12.4	+5.6	+10.3		+8.4	+9.0	+13.6

２　無回答率

国語	平均無回答率	問題形式別平均無回答率		
		選択式	短答式	記述式
第三中	2.6	0.1	1.6	6.8
全国（公立）	4.4	0.2	3.2	11.4
全国比較	−1.8	−0.1	−1.6	−4.6

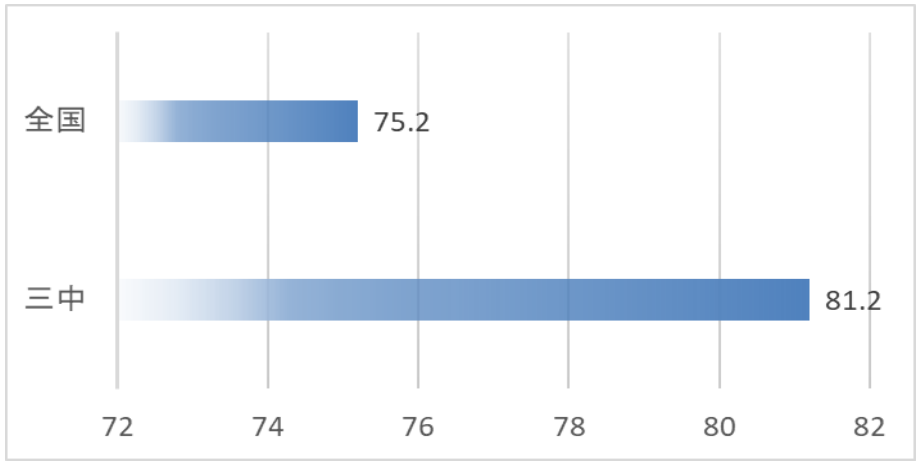
数学	平均無回答率	問題形式別平均無回答率		
		選択式	短答式	記述式
第三中	6.6	0.0	4.7	13.1
全国（公立）	11.2	0.7	8.0	21.2
全国比較	−4.6	−0.7	−3.3	−8.1

３　ここまでのご説明

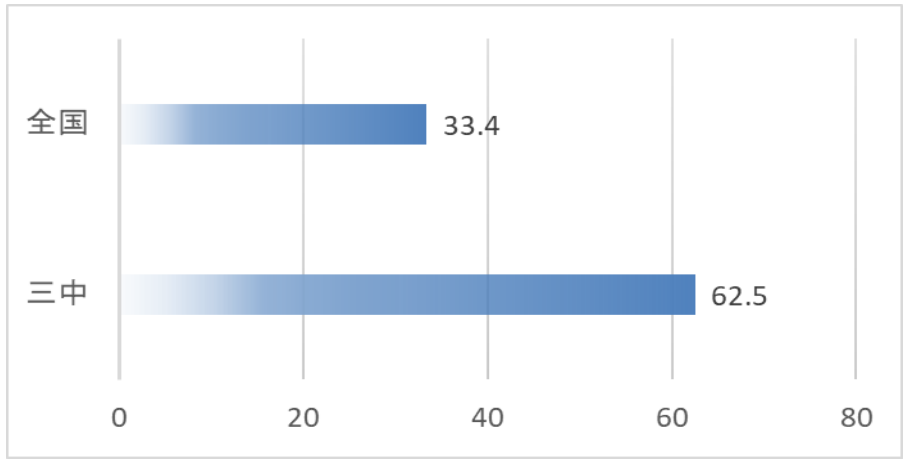
〇正答率とは正答した割合なので、全問正答だと「１００．０」になります。「１００点満点中」と同様に考えてください。
〇「１」の結果から、区分別に見ても、観点別に見ても、問題形式別に見ても、すべてにわたって全国平均や東京都平均よりも本校は上回っていることが分かります。
〇テレビや新聞などで、都道府県別の平均正答率を公表して、「〇〇県がどうだった」などと報道することがありますが、前回の場合（２年前）、最も平均正答率の高かった県でも、全国の平均正答率より、国語では「＋５．２」、数学では「＋６．２」ですので、本校は、「大きく上回っている」ということになります。
〇正答率で、特に顕著だった黄色のマーカーをした箇所から考えられるのは、本校の子どもたちは「国語への関心等がとても高いこと」「数学の課題に対して数学特有の見方や考え方ができること」「一般的に多種多様な能力が求められ、子どもたちからは難しいと言われる、記述式の問題に対する正答率が非常に高いこと」があげられます。
〇無回答率というのは、何も回答しなかった、つまり白紙回答だった割合のことです。無回答の理由は様々ですが、「分からないから回答しない」「知らないから回答しない」「そもそも問題の意味が分からないから回答しない」「やる気がないから回答しない」などが考えられます。
〇「２」の結果から、本校の子どもたちは無回答率が全国平均よりも低く、前述したような子どもたちが少ないということが言えます。
〇特に顕著だった箇所に黄色のマーカーをしましたが、記述式の問題に対する無回答率が大きく下回っていることが分かります。
〇「記述式」というのは、答えの求め方や考え方を解答する問題や、解釈や評価などを文章で解答する問題のことです。ですから、記述式の問題では、前述した理由のほかに「分かるような気はするけど、どのように記述したらいいか分からない」「記述すること、文章を書くことが面倒くさい」なども考えられます。さらに、記述式の問題を無回答にするということは、問題文が長くて読解することができなかったり、いくつものデータや資料の関連などを読み解くことができないなどの、多種多様な能力が身に付いていないということも考えられます。
〇なお、「短答式」というのは、本文中からの抜き出したり書き換えをして解答する問題、数値・数式などを単語や比較的短い文章にして解答する問題のことです。
★それでは、「なぜそのような結果になったのか」について、関連する「生徒質問紙調査」の集計結果を抜粋して紹介します。

4　生徒質問紙調査の集計結果より

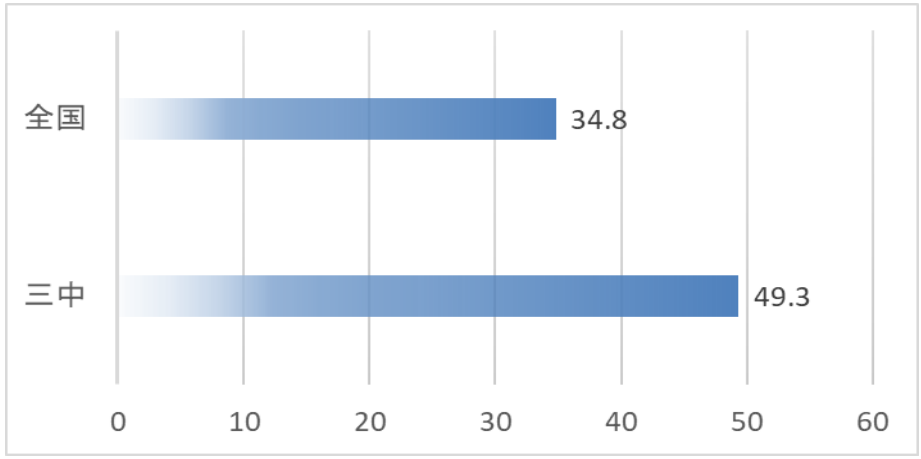
（1）「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



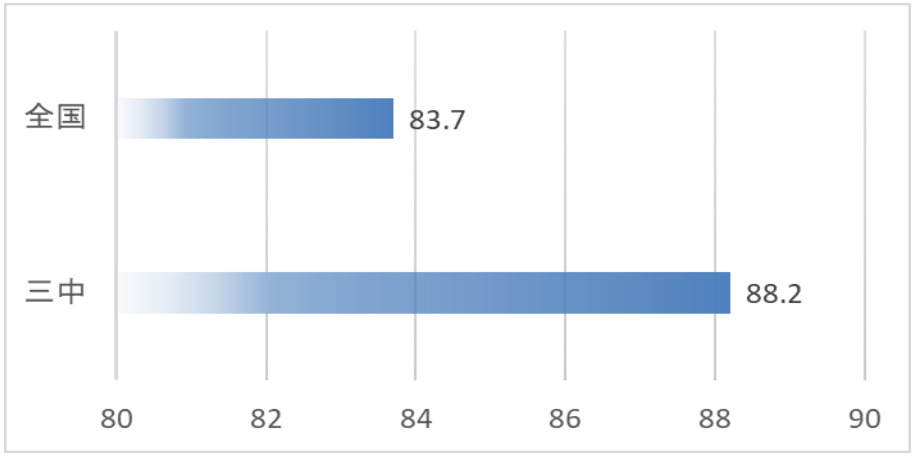
（2）「1、2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」で、「ほぼ毎日」もしくは「週1回以上」と回答した割合



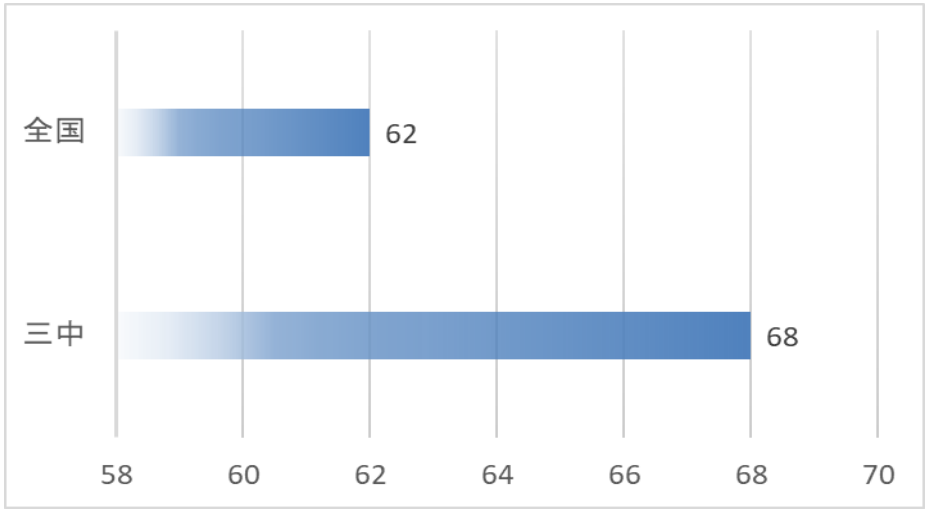
（3）「あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の生徒と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」で、「ほぼ毎日」もしくは「週1回以上」と回答した割合



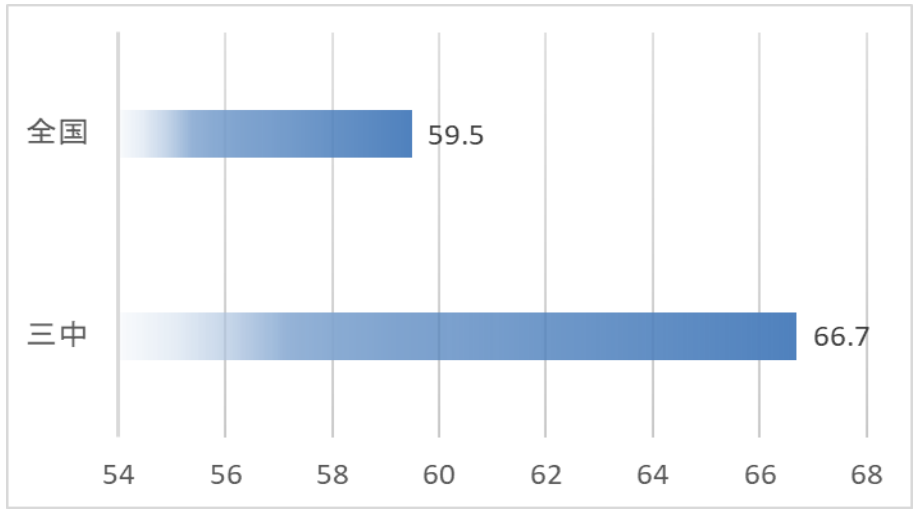
（4）「1、2年生のときに受けた授業で、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え（自分と同じところや違うところ）を受け止めて自分の考えをしっかり伝えていましたか」で、「伝えていた」もしくは「どちらかといえば伝えていた」と回答した割合



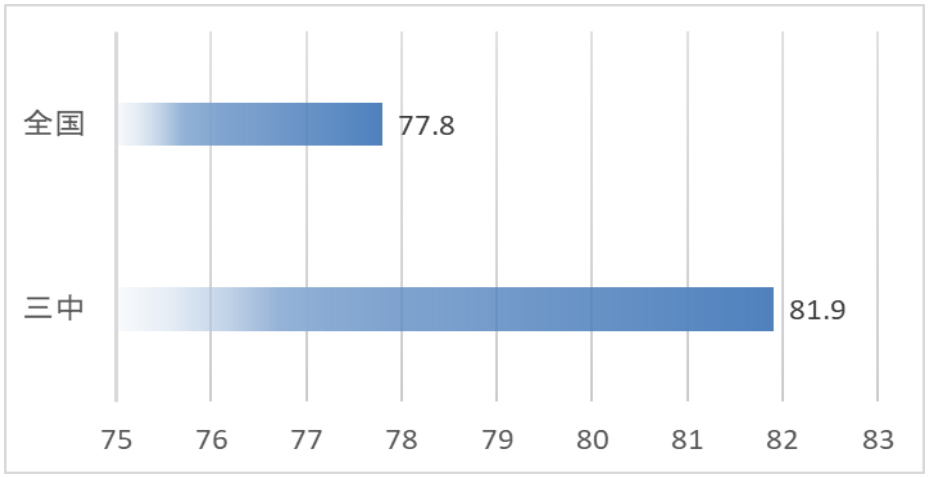
（5）「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」で、「発表していた」もしくは「どちらかといえば発表していた」と回答した割合



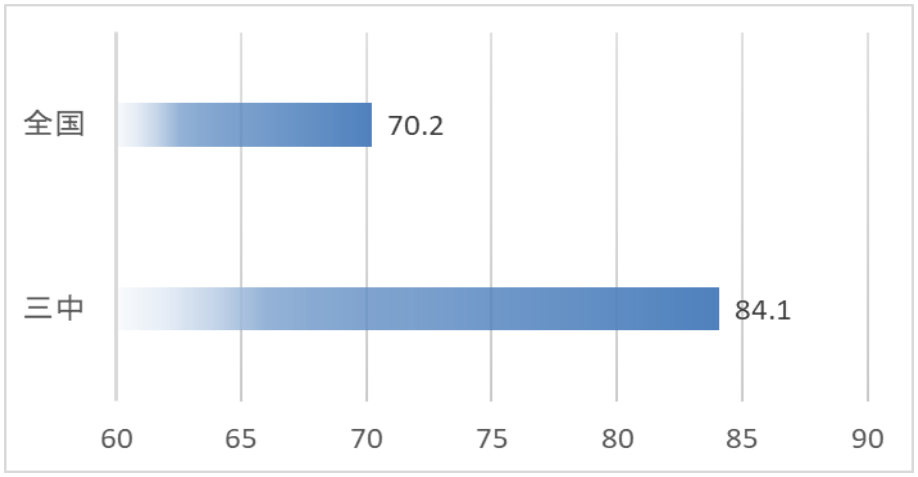
（6）「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



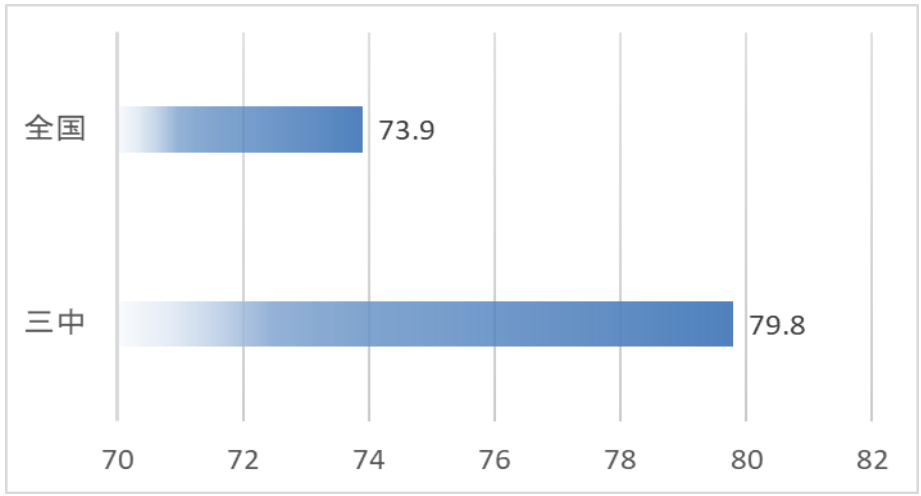
（7）「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



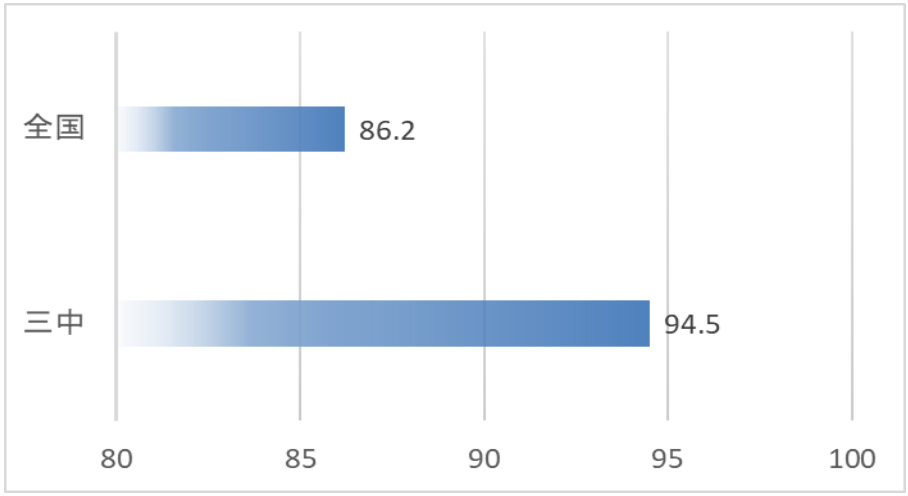
（8）「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



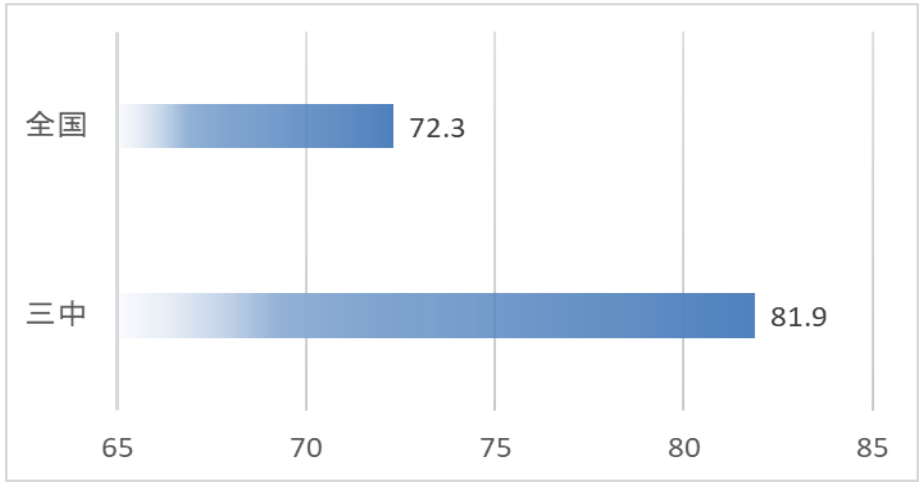
（9）「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



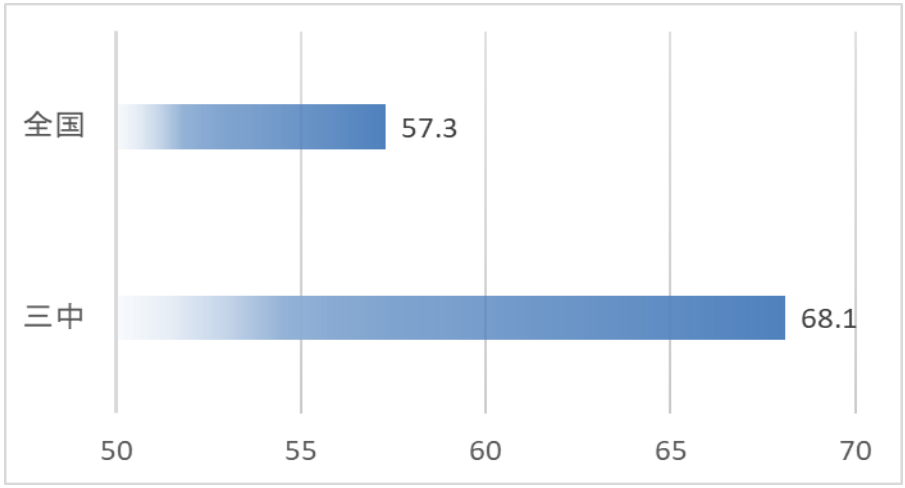
（10）「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



（11）「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか」で、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合

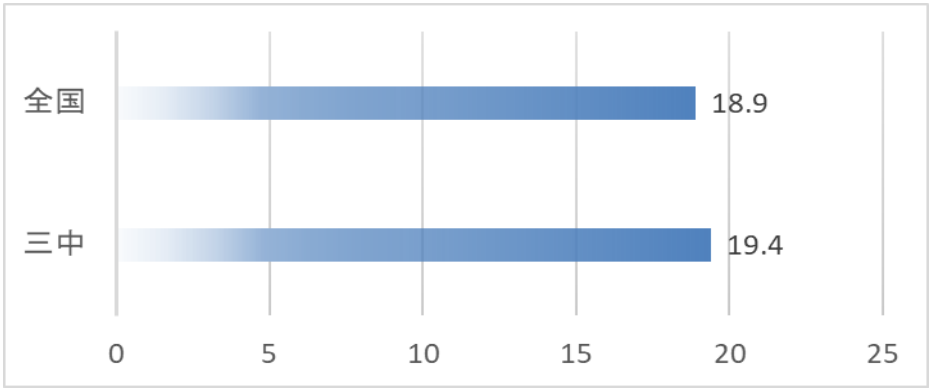


（12）「今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題についてどのように解答しましたか」で、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合

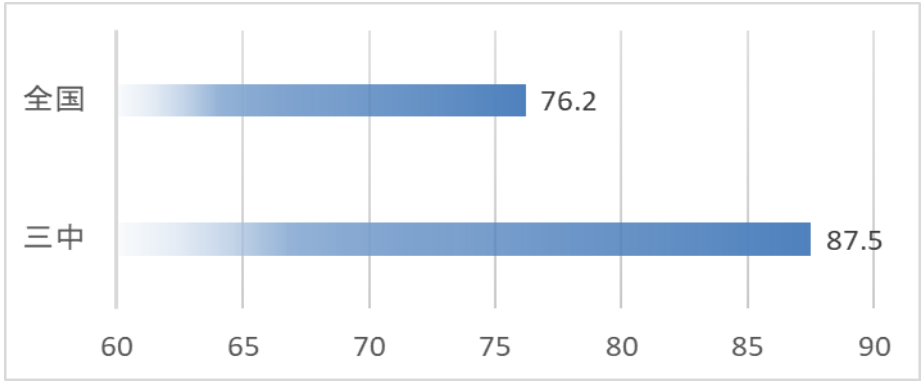


５　最後に、家庭・学校が一緒に取り組んだ成果と、今後取り組むべき課題（生徒質問紙調査の集約結果より）

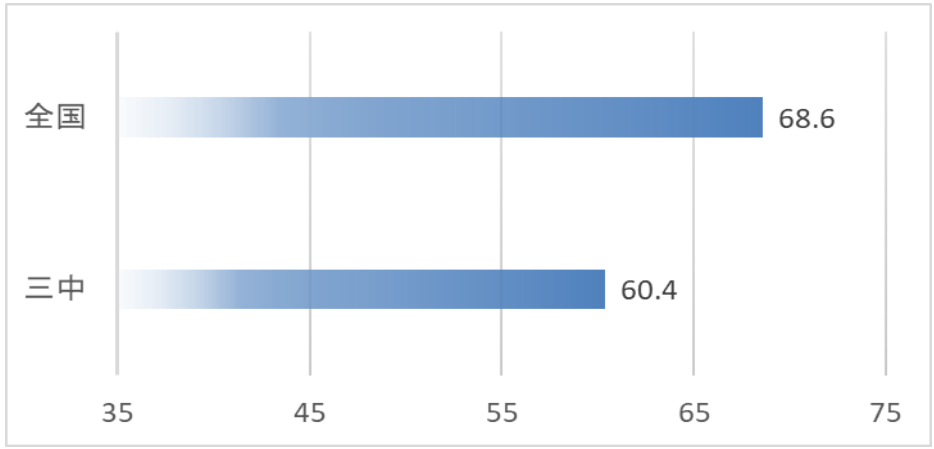
（1）「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について，家の人と約束したことを守っていますか」で、「携帯電話・スマートフォンやコンピュータはもっているが、約束はない」と回答した割合



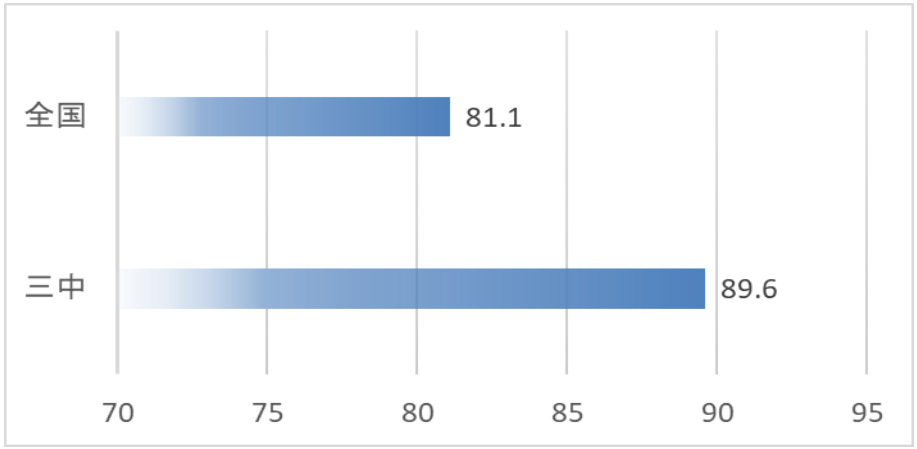
（2）「自分には，よいところがあると思いますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



（3）「将来の夢や目標をもっていますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



（4）「学校に行くのは楽しいと思いますか」で、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば当てはまる」と回答した割合



●学力調査の結果は、「測れる学力」の中の、そのまた一部にしか過ぎず、この結果が「学力」というわけではないことに十分ご留意ください。
●また、今回お示しした学力調査の結果、生徒質問紙調査の結果は、いずれも平均値であり、あくまでも本校の傾向を表したものですので、全ての子どもがそうだというわけではありません。本校の理念「一人一人の子どもを大事にする」をもとに、「その子に応じた指導をしていく」、それが「学校」というものです。